

県内建築系学生奨励事業

**第6回 卒業設計コンクール開催**

第6回目を迎えた卒業設計コンクールに9大学26点の卒業設計作品が出品され、4月25日から30日まで埼玉会館第3展示場にて開催された。

「都市やデザインにもIT時代にふさわしい斬新な発想が求められている。そのようななか、新しい世紀の第一線で活躍が期待される県内建築系学生の能力向上、育成を盛る目的で、次代を先取りした意欲ある卒業設計作品を募集し、卒業設計コンクールを実施する。また、若い学生たちの考えた創造価値と熱意を一般に広く理解を求め、作品を県民にアピールする」をテーマに開催してきた卒業設計コンクールも、前回より応募数が増え、定着したといっべてよいでしょう。毎回応募作品を寄せていただいている各校の先生、学生、主催者、共催者、後援の方々の熱意に敬意を表したいとおもいます。

◇表彰式

平成18年4月30日（日）には、埼玉会館にて受賞された生徒および先生方に出席をいただき表彰式が行われました。

また、テレビ埼玉による取材が入り、放送されました。



卒コン参加者



会長と受賞者

表彰風景



最優秀賞 古澤君



展示風景



※卒業設計コンクールの実施にあたり、埼玉県よりご後援をいただきました。また、日本工業大学・伊藤庸一先生をはじめ各大学の先生方に大変お世話になりましたこと、厚く御礼申し上げます。

## 実施概要

対象	大学、短大建築系学生卒業設計作品
賞	最優秀賞：1作品 優秀賞：2作品 審査員特別賞：3作品 埼玉賞：1作品
日程	作品募集 平成18年4月25日～平成18年4月30日
審査	平成18年4月30日
作品展示	平成18年4月25日～平成18年4月30日（埼玉会館 第3展示場）
表彰式	平成18年4月30日（埼玉会館 第3展示場）
審査委員長	日本工業大学 伊藤庸一先生

### ■特別審査員

日本工業大学	武田 光史 先生
芝浦工業大学	衣袋 洋一 先生
東洋大学	浅井 賢治 先生
東京理科大学	鈴木 信宏 先生
東京電機大学	山本 圭介 先生
東京電気大学	山名 善之 先生
日本大学	宇杉 和夫 先生
共栄短期大学	六反田千恵 先生
工学院大学	澤岡 清秀 先生
武蔵野美術大学	布施 茂 先生
ものづくり大学	八代 克彦 先生
埼玉県都市整備部建築指導課	石渡 篤 副課長
(社)埼玉県建設業協会	関根 宏 会長
(社)日本建築学会	市川 毅 支所長
清水建設(株)	佐久間光市 営業部長
(株)埼玉新聞社	丸山 晃 代表取締役社長

### ■一般審査員

協会会長	桑子 喬
協会副会長	大川 紀夫
〃	梶 芳晴
相談役	高岡 敏夫
〃	片淵 重幸
特別委員会委員長・副会長	田中 芳樹
特別委員会委員	古橋 一廣
〃	高梨 久雄
〃	山田 慎一
〃	清野 守夫
〃	金子 信弘
〃	原田 章吾

### 協賛会社（順不同）

(社)埼玉県建設業協会 (社)日本建築学会 (株)竹中工務店 戸田建設(株) 大成建設(株)  
 スミダ工業(株) 大野建設(株) 柏木建設(株) (株)田中工務店 生和テクノス(株) (株)サンプラント  
 (株)アーバンソイルリサーチ (株)オキナヤ (株)佐伯工務店 (株)UDK 太陽工業(株) (株)八洲電業社  
 (株)蓮見工務店 大和工商リース(株) ロンシール工業(株) 東陶機器(株) 吾妻工業(株)  
 (株)東京黒板製作 (株)INAX 三協立山アルミ(株) (株)大林組 (財)さいたま住宅検査センター  
 YKKAP(株) 総合資格学院 大宮校 越谷校 川越校 三和シャッター工業(株) 服部地質調査(株)

## 出店作品・審査結果

最優秀賞	古澤辰徳	武蔵野美術大学造形学部建築学科 「新世紀農業集落の風景」
埼玉賞	小豆畑充宏	東洋大学工学部建築学科 「MACHI+REKISHI=MUSEUM」
優秀賞	梅中美緒	工学院大学建築都市デザイン学科 「systema city」
	本江康将	東京電気大学工学部建築学科 「連なる境界線」
審査員特別賞	青木公隆	東京理科大学工学部建築学科 「都市に驚きを」
	戸田みのり	東京理科大学工学部建築学科 「路地といえ」
	田村翔	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 「Over lay 大宮風景構想」
参加賞	長谷川徹	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 「職業ミュージアム」
	高木雄介	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 「nostalgia」
	内山信吾	東洋大学工学部建築学科 「脱!! もの売り商店街」～都市型リデュース大作戦～
	岡部慎也	東洋大学工学部建築学科 「地方都市のこれから」
	小野曜子	日本工業大学工学部建築学科 「3-dimension park project」
	外城征教	日本工業大学工学部建築学科 「堤防を利用した入江空間～新旧住民を結ぶ交流空間～」
	長谷川亜矢	日本工業大学工学部建築学科 「シアターパーク 住む遊び空間によるまちなみ」
	篠田美穂	共栄学園短期大学住居学科 「green hoose」
	唐牛万緒	共栄学園短期大学住居学科 「ASAKUSA MONOMI STATION」
	戸崎康裕・半藤芳宏・吉田茂仁	共栄学園短期大学住居学科 「幸手駅周辺開発」
	長田伸亮	東京理科大学工学部建築学科 「villadom」
	岡田直之	東京理科大学工学部建築学科 「本と珈琲の香りに誘われて」
	永井晃	東京電気大学工学部建築学科 「STRINGS OF LIFE」
	山本慎介	東京電気大学工学部建築学科 「都市 ベーテル」
	山村尚子	武蔵野美術大学造形学部建築学科 「flow」
	山下久美子	武蔵野美術大学造形学部建築学科 「小さな街の大きな家」
	佐々木幸史郎	ものづくり大学建設技能工芸学科 「茶室 初心庵」
	星野公亮	ものづくり大学建設技能工芸学科 「木造保育園の設計」
	森雅志	ものづくり大学建設技能工芸学科 「the change from football」 一都市のソフトサッカークラブとの施設計画ー (川原不同)

## 最優秀賞

古澤辰徳 武蔵野美術大学 造形部 建築学科  
新世紀農業集落の風景

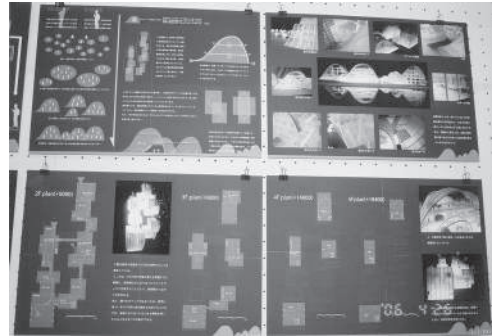
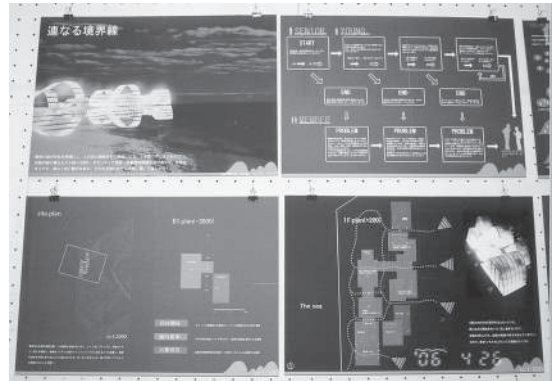
舞台は新潟県上越市、北陸自動車道上越 I.C 近く水田単作地帯の 40,121 m<sup>2</sup>。新しい農業の関わり方を再考する。10 のライフスタイルがこの地に集住する。設計において、全体を統合していく、マスタープランから組み立てていくのではなく、個々の農家の具体的なライフスタイルをシミュレーションすることによって、農地十住まい十αの風景を構成した。



優 秀 賞

本江康将 東京電気大学 工学部 建築学科  
「連なる境界線」

水面下で活動するNPO・ボランティア団体の仕事に流れを持たせる共同のオフィス空間の形を作る。資金・人材・環境・広報・情報あらゆるものが不足する彼らに、気づき信頼し、理解し、参加できる。そのための建物である。



優 秀 賞

梅中美緒 工学院大学 建築都市デザイン科  
「systema city」

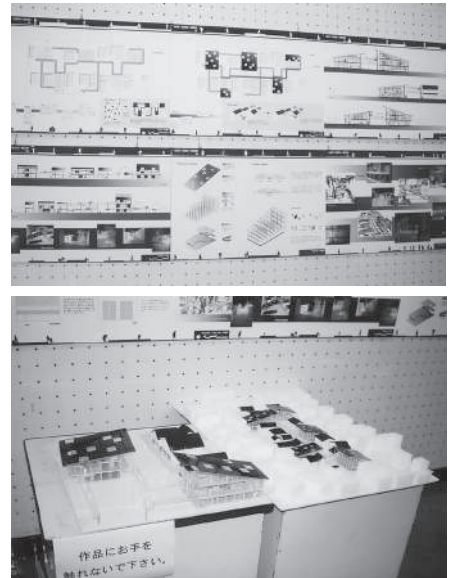
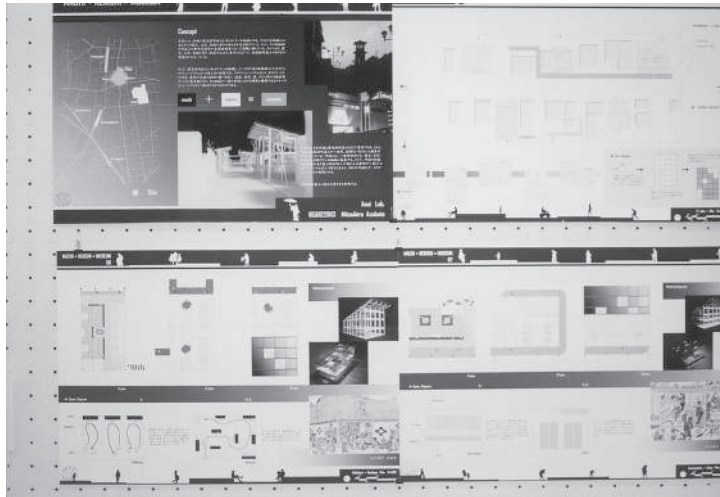
ニーズの変化・状況の変化に適應するadaptableな可変・可動建築システムの提案。ロケット発射時期により、70人~3000人と変化する職員数に適應し、ミュージアム⇄集合住宅にと形を変える宇宙センターの提案。



埼玉賞

小豆畑充宏 東洋大学 工学部 建築学科  
「MACHI + REKISHI = MUSEUM」

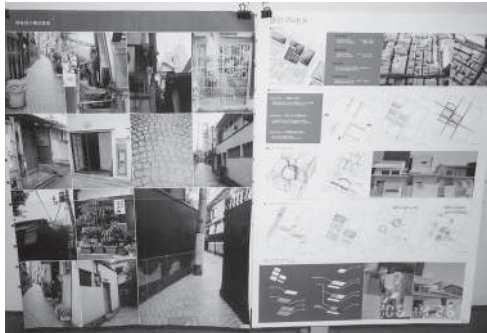
日本には各地に歴史的町並みと呼ばれている地域があります。しかし、その町並みが都市開発や自然破壊等により危機に瀕している地域も多く存在します。それにより、その地域では町並みを守り、保存することに集中してしまっていて伝統的な町並みの在り方が単純化しているように思います。そこで、私は伝統的な町並みである川越の一角をそのまま美術館にしてしまうよりミュージアムという考え方を提案します。それは、町並みの住民・住宅・道路等、その環境を構成するものすべてが展示品となり、そのゾーンが1つの大きな美術館となるものです。この考え方が、川越だけでなく、他の様々な地域に通用されることにより、伝統的な町並みに活気があふれ、本当の意味での保存につながっていくのではないかと思います。



審査員特別賞

戸田みのり 東京理科大学 工学部 建築学科  
「路地といえ」

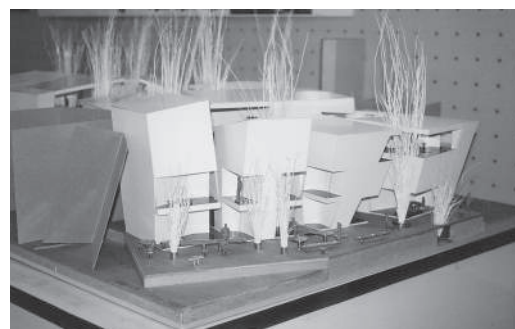
東京、神楽坂。そこには様々な表情を持つ「みち」が存在する。奥に入り込めば、そこには落ち着きある趣きある「みち」が存在する。もしその先に、人々の会話、生活の音があふれる「みち」が存在するならば。「路地にすみ、路地と暮らす」ことをテーマに設計を行った。



審査員特別賞

青木公隆 東京理科大学 工学部 建築学科  
「都市に驚きを」

従来の公共建築を解体し、新しい公共建築をつくる。詰め込まれていた公共建築は外へ外へと溢れ出す。



審査員特別賞

田村 翔 芝浦工業大学 システム工学部 環境システム学科  
「over lay 大宮風景構想」

新幹線高架をベースとした風景をつくる提案です。敷地は埼玉県さいたま市大宮総合車両センター。鉄道博物館の誘致に際し、大宮駅と博物館を結ぶ高架に沿った建築です。現状有効活用されていない高架下空間をきっかけとして、近隣住民の楽しい日常空間を挿入します。見捨てられていた空間が、まちを再生させる鍵となります。



## 総 評

### 審査委員長

日本工業大学 工学部 建築学科 教授  
工学博士 伊藤 庸一



いまや恒例になった埼玉建築設計監理協会主催の卒業設計コンクールが第6回を迎えた。卒業した学生の作品を展示し、審査を行うのであるから、各大学の先生方もたいへんなご苦労と思うが、それ以上に主催者・埼玉建築設計監理協会の裏方のご苦労には頭が下がる。

しかし、労は報われ、昨年に続き今年もテレビ埼玉で展示・審査の風景を取り上げてくれることになった（06年5月5日午後5時35分放映）。卒業設計コンクールの狙いである「・・・新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上、育成を図る目的で、次代を先取りした意欲ある作品を募集し、若い学生達の考えた想像価値と熱意を奨励し・・・」が広く社会で認知された証であろう。

聞くところでは、第3回卒業設計コンクール最優秀賞「共棲文化空間」で提案された大宮駅東口再開発計画をきっかけに地元商店会と芝浦工業大学衣袋研究室とがまちづくりワークショップを重ねている由。設計テーマが社会から抽出され、設計作品の発想が社会に還元される展開こそ建築設計教育の本質であり、それがこの卒業設計コンクールをきっかけに実現されつつあることは喜ばしい限りである。

埼玉建築設計監理協会ではこれを受け、卒業設計のテーマを埼玉から抽出し、作品が埼玉のまちづくりへ影響を及ぼす展開を期待して、昨年度第5回から埼玉賞を創設している。埼玉賞が学生の関心を高め、埼玉のまちづくりのはずみになることを期待したい。

今年度の応募は26点であった。新たに、ものつくり大学がようやく機が熟しコンクールに応募してくれた。ほかはおおむね常連校で、卒業設計コンクールの定着をうかがわせる。

今年の展示・審査会場は改装が終了した埼玉会館で、展示室にゆとりがあるため、審査にともなうプレゼンテーションも展示作品の前で行うことにした。審査員は立ちっぱなしになるが、全作品の展示の前でプレゼンテーションができるため、質疑応答は活潑になった。

審査方式は昨年とほぼ同じで、特別審査委員（大学の先生、学会、協会、企業など）と一般審査委員（埼玉建築設計監理協会卒コン委員など）が優秀賞候補、および埼玉賞候補を3点ずつ選び、前者は2点、後者は1点で単純計算して優秀賞候補、埼玉賞候補を3点に絞る。優秀賞候補者、埼玉賞候補者は3-4分のプレゼンテーション、2-3分の質疑応答を行い、特別審査委員が最優秀賞、埼玉賞を各1点選び、単純得票で、最優秀賞1点（残り2点が優秀賞）、埼玉賞1点が選ばれた。

審査員特別賞は、特にアイデアや創造性に優れた作品を特別審査員がそれぞれ3点選び、単純計算のうえ、優秀賞、埼玉賞受賞者以外の3名を選んだ。最優秀賞は海外研修費として20万円が贈られる。会場には、前回第5回の最優秀賞を受賞した虎尾亮太君の、14日間、アメリカで刺激的な建築を見て回ることができた感動を記した旅行報告が紹介されていて、審査を盛り上げてくれた。

公開審査の結果、最優秀賞に古澤辰徳君「新世紀農業集落の風景」、優秀賞に梅中美緒君「systema city」、本江康将君「連なる境界線」、埼玉賞に小豆畑充宏君「MACHI + REKISHI = MUSEUM」、審査員特別賞には戸田みのり君「路地といえ」、田村翔君「Overlay 大宮風景構想」、青木公隆君「都市に驚きを」が選ばれた。おめでとう。

いつも思うことだが、若々しい、意欲的な作品の審査は楽しい。実際には、一つの作品を7分見ても26作品で3時間、公開審査がおよそ2時間、のべ5時間の審査はかなりの負担だが、心地よい疲れである。とりわけ手書きの図面や巧みな模型は、それだけで目を釘付けにし、手仕事を通してのみ伝わる汗や時間や思い入れの重みを感じられ、審査の疲れを癒してくれるばかりでなく、若者らしいひたむきさが未来を予感させてくれる。

最優秀賞「新世紀農業集落の風景」は、新潟県上越市での農業、農村再生をテーマにしている。家業が兼業農家だそうで、農業、農村の衰退を日々感じていたのが動機のような。場所は上越であっても日本の農業、農村問題、ひいては国土形成計画への一石となるテーマであり、まずテーマ性を高く評価したい。さらに従来型の農業生産、農村社会の限界を感じ、現代的な多様な農業展開、多様なライフスタイルの魅力を取り入れ、10のライフスタイルを想定した農業、農村再生計画のアイデアもいい。真摯なプレゼンテーションも好感が持て、最優秀賞に選ばれた。しかし、農業、農村の風景はその土地の地域特性を読み切り、構築されてきた文化としての表現のはずだが、提案されたデザインは上越の風景への理解が乏しく感じられた。大いに農村を歩き、風景として表現された文化を考えて欲しい。

優秀賞「systema city」は最優秀賞に準じた得票を得た作品である。大型ロケット発射場として知られる種子島宇宙センターは発射時期には職員が3000人となる。しかし、発射がないときは70人ほどに激減する。そこで、3000人のための空間を日常的にも活用できないか→種子島の歴史、宇宙ロケット、美しい海を題材にしたミュージアムはどうか→ミュージアム⇄集合住宅へと可変できるシステムをどう組み立てるか、と構想が発展し、優れた作品となった。調査報告書も展示されていて、その努力も高い評価になった。が、システムの提案に重点がおかれすぎたため、種子島という場所性が薄れ、あるいはこのテーマを通した社会への切り込みが弱まってしまったように思う。

優秀賞「連なる境界線」は多様な活動で社会を支えているNPO、ボランティア団体が活動拠点に不足し、また横の連携が弱いことに着目し、お台場に共同オフィスを構想した作品である。活動が波のうねりのように連続し、発展することをイメージした形はユニーク、模型は注目を浴びた。が、形の処理にとらわれすぎたためかテーマの掘り下げが弱い。例えば、災害などに特化し、防災減災、災害支援、復旧復興支援活動の意義を掘り下げた方がよかった、と思う。

埼玉賞「MACHI + REKISHI = MUSEUM」は川越を取り上げ、町並みを構成する環境要素すべてを展示媒体とするエリアミュージアムを提案した作品である。伝統を保存しつつ活性化を図るエリアミュージアムの発想が高く評価されて、埼玉賞となった。川越は再三取り上げられているし、研究蓄積も多い。単に環境要素をエリアミュージアムとして再構成するのではなく、エコミュージアムのように、環境要素の社会的意義を掘り起こした活用やこれからのまちのあり方を見越した再構成の提案が望まれる。（060430）

